

PM資料ガイド

項目	Middle Ware	Rev.	年月日	作成
	ミドルウェア	0	04.03.31	JPMF 教育部会
対象	一般			
視点	基本解説			

Middle Ware ミドルウェア

社団法人 日本機械工業連合会と財団法人 エンジニアリング振興協会が平成 7 年 3 月発行した「CAE/PMS 統合化に関する調査研究」資料で解説があり、分かり易く説明しているので、以下に紹介する。

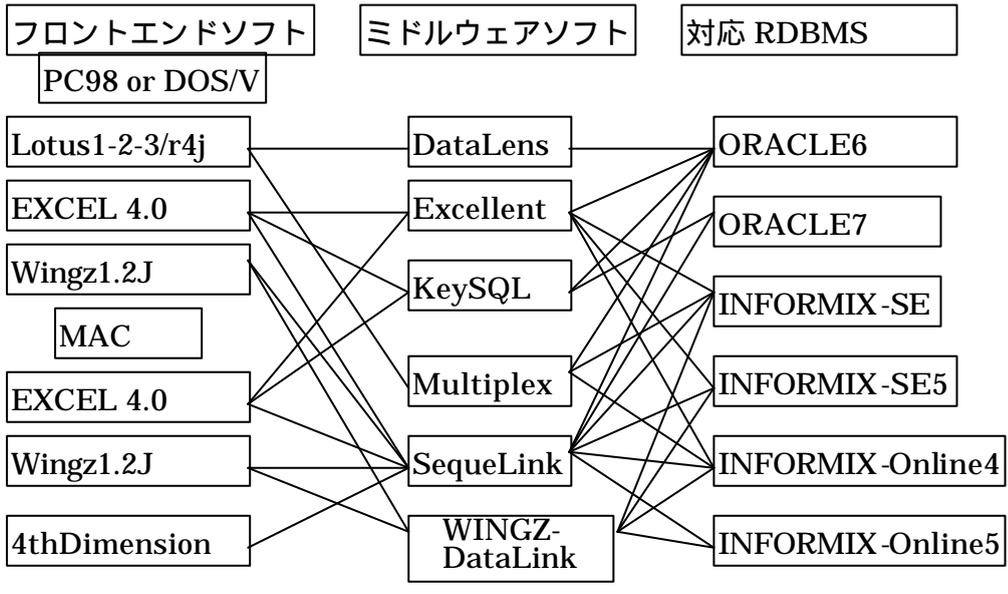
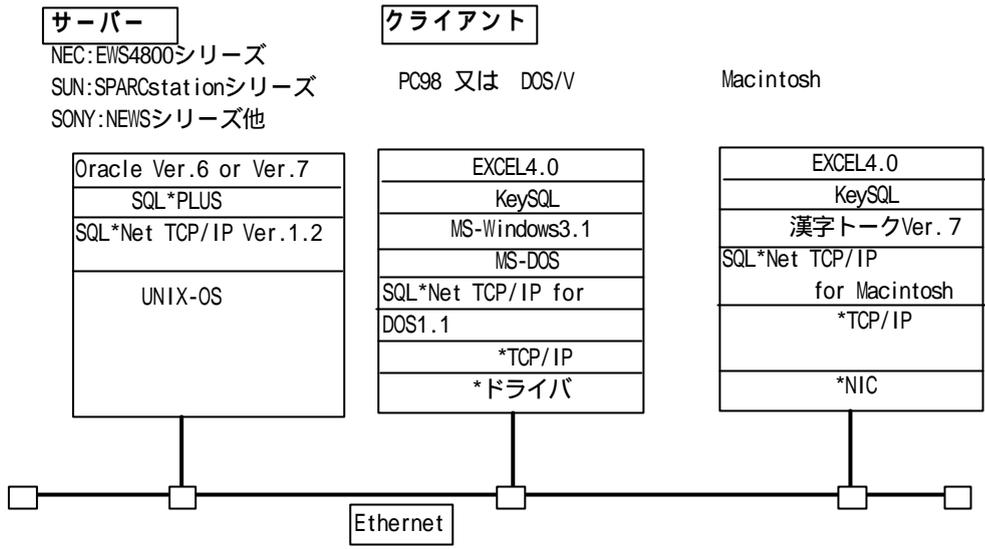
Middle Ware とは

積み木型のシステム構築を可能にするソフトウェア。

ミドルウェアとは、広義にはオペレーティングシステム（OS）と業務アプリケーションとの仲立ちをするすべてのソフトウェアをさす。この定義に従えばデータベース管理システム（DBMS）、ソフト開発支援システム、GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）、各種通信ソフトなどは全てミドルウェアになる。クライアント/サーバ・システム分野でミドルウェアと言う時は、クライアント側のアプリケーション・ソフトとサーバー上のソフト（主としてDBMS）をネットワークを介して連携させる為のソフトウェアをさす。ミドルウェアの持つ意義は大きくって2つある。

1. OSの提供するサービスや、ネットワークの通信プロトコル等詳細な知識がなくとも業務アプリケーションを構築可能とする事。
2. 各社のOSやハードウェアの微妙な差異を吸収し、相互運用性（インタオペラビリティ）を確保する事。

ミドルウェアを使う事により、ユーザーはOSやハードウェアなどのプラットフォームに縛られずにシステムを構築できる可能性が高まってきた。だがその反面で、アプリケーションがミドルウェアに深く依存してしまい、そこから逃げられなくなる恐れがある。ミドルウェアを選択する時には、それが標準化の動向に反していないか、将来にわたり安定したサポートが得られるか、他の製品へ移行する余地が残されているか、といった点を十分に考慮する必要がある。



< 参考図書、文献 >

日経オープンシステム他

エンジニアリング能力の強化に関する調査研究報告書(1) CAE/PMS 統合化に関する調査研究
 発行 平成7年3月 発行者 社団法人 日本機械工業連合会 財団法人 エンジニアリング振興協会